

令和7年度 学校関係者評価委員会からの報告を受けて
次年度に向けた改善方策

桜咲く深緑の学び舎
世田谷区立深沢中学校
校長 山村 恵子

1 学習について

- ▶①「学ぶことが楽しい」 →（生徒）肯定的評価…70%
- ▶②「授業では、協働的な学び（課題について、友達と考えたり、話し合ったり発表しあったりすること）を取り入れている。」 →（生徒）肯定的評価 84%（前年比▲-1%）
- ▶③「先生は、板書やプリントを使用したり、映像やタブレットなどのICTを利用して、わかりやすい授業をしている」 →（生徒）肯定的評価 89%（前年比△+1%）
- ▶④「先生は、提出物やテストなどをわかりやすく評価している」
→（生徒）肯定的評価…80%

- ・②、③の結果から、グループ学習や、ICT（ロイロノート）などを活用して個人の意見を共有し話し合う活動、ICT機器を適切に活用しての授業づくりに多くの生徒は肯定的評価を示している。さらに個別な学び（課題について自分自身で設定したり、考えたりすること）を積極的に取り入れ、「学ぶことが楽しい」授業づくりを進めていく。
- ・評価については、評価計画に則り、評価材料や評価の観点を生徒及び保護者にわかりやすく伝えていく。

2 学校生活について

- ▶①「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」
→（生徒）肯定的評価…92%
- ▶②「先生たちは、生徒が相談しやすい」 →（生徒）肯定的評価…76%
「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」 →（保護者）肯定的評価…74%

- ・①をはじめ、生徒は学校生活を概ね肯定的にとらえている。（学校生活が楽しい…92%、学校行事は楽しい…97%など）引き続き行事等を活用して、生徒が自己有用感を感じられるような取組みを積極的に行っていく。
- ・②の結果から「あいあいタイム」や「個人ミニ面談」「SC面談」「休み時間の学年フロアの見守り」などを通して、いつでもどこでも生徒が気軽に教員に相談できるような雰囲気を全校体制で醸成していく。また、保護者に対しても、何か問題が起きてから報告・連絡をするのではなく、日常の報告・連絡を密にし、相談しやすい信頼関係を構築する。

3 キャリア教育について

- ▶「将来の進路や将来の仕事について考える授業がある」
→（生徒）肯定的評価 67%（前年比△+5%）
（保護者）保護者肯定的評価 70%（前年比△+11%）、わからない率 14%

- ・キャリア（進路）学習については、どの学年も積極的に外部人材を活用するなど工夫しながら進めていたが、今自分たちがどのような目的のために何を行っているのかという意識付けが弱かった。学習進路部が中心となって、各学年で行う活動の内容や方法等を学校全体で共有し、3年間を見通した、系統的、計画的なキャリア教育を推進していくことが課題である。また、キャリア教育の進捗状況を丁寧に保護者に伝えていくことで、キャリア教育に対する理解を得ていくことが必要である。

4 家庭学習・生活・地域について

- ▶「私は、地域での行事や活動に興味がある」（生徒）肯定的評価→48%
 - ▶「本校は、地域の活動などに協力的である」（保護者）肯定的評価→65%
 - ▶「地域の人や施設を教育活動に活かしている」（地域）肯定的評価→60% わからない率 25%
- ・令和8年度より「学校運営協議会」という新たな仕組みに移行し、学校と地域が協働して生徒を育成することが明確に示された。「学校（生徒）が地域に出ていく」⇔「地域の力を学校に呼び込む」双方向の流れをつくっていく。
 - ・職場体験学習の受け入れ先事業所との連携（2学年）、地域行事への参加（吹奏楽部、茶道部）など、今後も積極的に地域や近隣大学の人材を活用し、地域活動の機会をつくっていききたい。

5 取組み目標について

- ▶「自分にはよいところがある」（生徒）肯定的評価→78%
- ・「時間・挨拶・思いやり」の3項目の生徒肯定的評価は高く、多くの生徒たちがお互いを思いやり、前向きに学校生活を送っていると評価している。
 - ・「自分にはよいところがある」肯定的評価は、1年生…72%、2年生…75%、3年生…87%と学年が上がるにつれて高くなっており、学校生活での様々な取組みが生徒の心の成長を促していると考えられる。その要因のひとつに、学校行事の充実があげられる。体育祭や展示発表会（舞台の部）での合唱コンクール、各学年の行事を計画的に実施したことで、生徒の満足度はとても高かった。（「学校行事は楽しい」と答えた生徒肯定的評価→97%）

行事に対する意識付けと取組み方を工夫し、行事を通して生徒が仲間との連帯感や自己有用感を感じられる取組みを展開していく。

6 学校運営・全般について（保護者・地域の方々対象）

- ▶「本校はホームページやメール、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」
→（保護者）肯定的評価…93%（前年比△+5%）
- ・ホームページに加えて、『すぐる』により、学校からの紙ベースの文書や提供したい情報を保護者に積極的に直接配信している。必要な情報をタイムリーに発信することができた。今後も学校からの適切でスピード感ある情報発信を行っていく。
- ▶「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」
→（保護者）肯定的評価…85%（前年比△+7%）
 - ▶「自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」
→（保護者）肯定的評価…80%（前年比△+11%）
- ・学校が安全で安心な場所であるということ、不測の事態が起こった時に迅速かつ臨機応変な対応をとり生徒の安全を確保することは、教育活動を進めていく上での基盤となる。
 - 今年度も、避難訓練やセーフティ教室、日々の教育活動の中で生徒たちに安全に関する指導を進めてきたが、来年度も引き続き安全に対する指導、訓練を行っていく。
 - また、自然災害が発生したときの災害対応マニュアルなどをホームページに記載し、広く周知するなど、より分かりやすく保護者に伝えていく。同時に、本校の安全指導方針を分かりやすく提示し、必要とすべき情報は正確かつ迅速に発信していく。